

2011 年度第2回中等教育機関日本語教師研修会：報告

今回は、黄女玲先生(国立高雄餐旅大学応用日本語学科助理教授)、蘇子翔先生(国立台中女子高校他 兼任講師)をお招きし、「学習者の積極的な参加を促す副教材」をテーマに研修会を行いました。

日時：(台北会場) 2011年7月 2 日(土) 13:30～17:30

於)交流協会台北事務所日本語センター

(高雄会場) 2011年7月24日(日) 13:30～17:30

於)福華大飯店

配付資料：こちら(PDF ファイル:Acrobat Reader が必要です。)

第一の講演者は蘇子翔先生でした。蘇先生は、副教材を使う目的として、「言葉の認識」、「日本の社会文化理解」、「リラックス」の3点をあげ、「副教材」を、教科書を補うもの＝教科書と連携させるもの、としてのみとらえるのではなく、副教材をメインに据えた授業がもつ可能性を提案されました。そして、副教材として1. 本(マンガと絵本)、2. インターネット、3. テレビゲームをとりあげ、紹介されました。

1では、現在流行しているマンガや絵本を利用することで、学生の日本語に対する恐怖心を取り除くと共に、日本語を学びながら日本の歴史や時事を理解することができるという利点があることを述べ、「日本人の知らない日本語」を具体例として取り上げました。また、「こげパン」(*2)を用いて何ができるかを参加者に考えてもらいながら、学習者が、可愛く、生き生きしたキャラクターに触れることで、日本語学習の教材は「教科書」だけではない事を理解させるきっかけとなるとことを示されました。

2では、インターネットを副教材として利用する方法が紹介されました。Youtubeで日本語の対話を見せ、言葉の持つ真の意味を考えさせる(例：「いいです。」がこの場合はYes, No どちらの意味なのか)、「銭湯」等、台湾にはない文化を教える、などの具体的な使い方の他、ニコニコ動画サイトの「ニコニコ生放送」を利用した、既習の日本語を用いて日本人と交流する方法や、初級学習者に適したフリーゲームについての紹介がありました。

3では、形容詞学習の導入にWii(*3)中のMiiを使った2時間の授業例を示し、文化やゲームを用いての日本語学習は、生徒の記憶に深く残るため、高校生の日本語学習において効果的であると結ばれました。

次は黄女玲先生のご講演でした。黄女玲先生は、長年の高校教育の現場でのご経験から、学習が進んでもなかなか、テレビにでてくる日常会話が理解できず、学習者が達成感を味わ

にくいことを問題としてあげられ、理解から応用が出来るようにするためには何が必要なのかという点について、問題提起されました。大切なのは、学習者に目標を与え、その目標達成に向けてのモチベーションを高めることであり、そのためには教師主導から学習者主導の授業への転換、また暗唱や機械的な繰り返し練習から積極的な応用練習への取り組みが必要だということを強調されました。

黄先生は、有効な副教材の一例として、内容は同じで丁寧度が異なる3種類の会話を同時に提示する自作のテキスト*4を披露されました。これは、学習時間の少ない高校生であれば、初級段階から普通体の会話が理解できるようにするための素材として、またホスピタリティ産業を目指す日本語専攻の生徒であれば敬語を早い段階から十分に練習できる素材として、学習者に合わせて活用できるものでした。

また、学習者が能動的に教室活動に参加できる環境づくりとして、大判の単語カードの使い方を示されました。初級学習者に、現在の自分の日本語力でも文章が作れるという達成感を持たせること、時間制限を設けたり、グループ対抗戦などを行うことで集中力を高めたり、生徒が単語カードを用いて作った文章を皆で眺めることにより、どこが間違っているのかを生徒自身で考えさせる工夫をされたりしていることが紹介されました。

その後、グループに分かれ、各校で使用している副教材の種類やその有効な使い方について情報交換が行われました。その中には、ドラマを利用し、その中の一部を放送することで授業の導入につなげていく、といった例の紹介もありました。

今回の研修会は、副教材を利用することの必要性は感じていても、なかなかその機会がなかった教師たちに、具体的なアイデアを提供するものであり、参加者からは「新しい考え方、新しい授業のやり方が示され、学ぶことが非常に多かった。」「教員になって間もないので教え方に試行錯誤しているがとても参考になった。」などの感想が寄せられました。

*1 蛇蔵&海野凧子著（メディアファクトリー）

*2 たかはしみき著（ソニーマガジンズ）

*3 任天堂販売のゲーム機

*4 配布資料参照

<研修会の様子>



蘇子翔先生



黄女玲先生



蘇子翔先生(後列左)・黄女玲先生(前列左から5番目)と共に (高雄会場)